

椎 の 実

No. 100

2014・12・28

〒500-8309 岐阜市都通2-2
岐阜市民福祉活動センター1F
（一社）岐阜県手をつなぐ育成会
電 話 (058) 253-8062
F A X (058) 254-9210
メールアドレス
ikuseig@alpha.ocn.ne.jp



第1回 全国手をつなぐ育成会 連合会全国大会島根大会

スローガン「神々の国しまねから発信！つながり、支え合う地域づくり」

平成26年9月27・28日 島根県立産業交流会館、松江テルサ



久保理事長による中央情勢報告

椎の実 100号を記念して

岐阜県手をつなぐ育成会理事長 柴田勇夫

岐阜県手をつなぐ育成会が昭和34年に岐阜県精神薄弱児育成会として設立以来55年となり、「椎の実」第1号を「手をつなぐ親たち」として昭和37年に発行（翌年から「椎の実」と改称）して52年を経て100号となりました。

このように長い歴史を持つ育成会であると改めて知りましたが、その当時と比べると最近では、法律面や施設を含めて障害福祉サービスは充実してきていますし、特別支援学校は県下では次々に整備されており、ずいぶん恵まれた環境になったと感じられます。

また、9月27日～28日に島根県松江市で育成会の全国大会が開催されました。今回は全日本手をつなぐ育成会が社会福祉法人格を返上し、「全国手をつなぐ育成会連合会」として発足してから初の全国大会としての開催でした。岐阜県からは24名の会員の方が、全体では2100名の参加があり、新たな出発を誓い盛大に開催されました。



昭和40～50年代の「椎の実」



おめでとうございます

全国大会表彰者

県育成会 副理事長 吉池 武 様

東海北陸大会表彰者

県育成会 理 事 廣瀬 一夫 様

もとす手をつなぐ育成会 事務局長

菅田 厚子 様

多治見市手をつなぐ親の会 会長

向井 一仁 様

第47回 手をつなぐ育成会東海北陸大会愛知大会

スローガン 『地域で築こう

信頼・安心・絆』

と き 平成26年10月25日(土)～26日(日)

ところ 豊橋市 ホテルシーパレスリゾート
アイプラザ豊橋

岐阜県からは 157 名が参加しました。第 1 日目は 6 つの分科会が開かれ、第 1 分科会「本人部会～思いを語ろう～」では多治見市の日谷友香さんが発表者、第 4 分科会「暮らす～どこで誰と暮らす～」では県立みどり荘保護者会長の春見鉄男さんが提言者、第 6 分科会では高山地区手をつなぐ育成会会長の 帆ノ下久美子さんが提言者を務めました。

第 2 日目は大会式典が催され、顕彰、大会宣言の採択ののち、内閣府障害者政策委員会委員田中正博氏より中央情勢報告及び記念講演があり、2 日間の幕を閉じました。

第 6 分科会報告 「育成会活動」～地域で生きる～

高山地区手をつなぐ育成会会長 帆ノ下 久美子

基調講演は静岡県手をつなぐ育成会小出隆会長がされました。浜松市手をつなぐ育成会は、次の活動理念のもと行政や学校、関係機関と連携し活発に活動されています。とても印象的な理念ですので一部をご紹介します。

- ・浜松市手をつなぐ育成会は、知的に障がいのある子の保護者で作る組織であり、育成会の会員はすべての年代にわたる。
- ・私たちが一番つらく苦しかったのは、子どもが生まれて障がいがあった時である。その時期の人たちに手をさし伸べられない育成会は存在価値がない（療育の支援体制の整備・充実への参画）。
- ・人は同世代の人とふれあい交わって成長していく。障がいのある人もない人も、ふれあいながら成長することでお互いの理解が生まれる。そして「子どもの力と親の勇気」が未来の地域をつくる。
- ・時代のトレンドは常に若い人である。また、会員の世代を支えるのは子どもの世代の人たちであり、その人たちとふれあい、わが子を託す地域をつくるのが、もっとも大切な育成会の活動である。
- …子どもは親の言うとおりに育たない。親のやるようにやっている。親が人と仲良くし、積極的な姿は子どもにうつる。

青少年福祉ボランティアリーダー育成研修も展開され、理念に沿って、積極的に活動されている浜松市手をつなぐ育成会の様子にとっても感銘いたしました。全国的に育成会の会員の減少が課題になっていますが、この課題を乗り越えるためのキーワードがこの理念の中にあるように思います。

提言者高山地区手をつなぐ育成会の帆ノ下が活動報告の中で、高山市地域自立支援協議会の実践を紹介しました。重度心身障がい児の医療機関でのショートステイ利用に関する取り組みや、特別支援学校卒業後の進路に対するアセスメントの必要性など、就労や医療についても参加者から質問がありました。



研修会報告

高山市役所にて

講演 「障がい者への一生を通じた、一貫した支援について」
～本人の声に応える支援体制づくり～

講師 社会福祉法人高水福祉会常務理事 福岡 寿 氏

平成26年11月17日、高山市役所地下ホールにて研修会を行いました。参加者は100名近くへのぼり、熱気が感じられる研修会となりました。今回は行政関係の方が多く参加され、地域における支援体制づくりへの関心の高さが感じられました。講演の内容から一部ご紹介します。



- ・地域移行に関して我々が勉強したのは、一人一人を見ないで場所だけ移してはダメだということ。「よく見てもらって、何に心が動くか見極めること」。心が動くことに出合っていなければ、興味のあることを知らなければ、何も言えないし反応も示さない。「できる限り見てもらおう」。
- ・わが子を中心に支援チームをきちんと計画しましょう。三か月に一回は振り返ってください。よく生活を見て興味を持ったことをしっかり記憶し、それを保障するのが相談支援の仕事です。



- ・持っている専門性とサービスは門外不出にしない、すべての事業所が、お互いの持っている財産を共有化する地域にしていく。ある法人事業所に行った職員は自閉症に詳しい、ある事業所は統合失調症にとっても詳しい職員がいる。どこかの支援会議にも困ったらその方が出ていきます。

等々、本人を中心とした支援をしていく上でのポイントをご講演頂きました。

家族支援プロジェクト

各務原市 福祉の里にて

平成26年11月13日、各務原にて家族支援ワークショップを行いました。「親子関係チェックシート」「よいところ探しワークシート」などに記入し、その後グループで話をします。若いお母さんが多く、和気あいあいとした楽しい会となりました。

詳細はホームページに掲載してありますのでご覧ください。

研修会のお知らせ

「障がいのある人を虐待からまもるために」

日時 平成27年1月13日(火)
13:00～15:00

場所 多治見市南姫公民館

講師 河合良房弁護士

※10:00～12:00「河合弁護士による個人法律相談会」を行います。お一人30分程を予定しています。

「障がいのある人と成年後見制度」

日時 平成27年2月2日(月)
10:00～12:00

場所 糸貫めぐもりの里

講師 河合良房弁護士

※13:00～14:30「河合弁護士による個人法律相談会」を行います。お一人30分程を予定しています。

※個人法律相談会を希望される方は、直接県育成会へお申し込みください (☎058-253-8062)

平成 26 年度障害福祉充実に関する要望・回答について (要約)

岐阜県障害者社会参加推進センターから県へ

育成会要望

1

特別支援教育について

特別支援教育において、教員の資質・専門性の向上をはかって下さい。また、発達障がいの子どもを含む生徒数の増加に伴い、そのような資質・専門性を持った教員の増加をはかって下さい。

【回答】 特別支援教育課 (特別支援教育係)

現在、次の5点について施策を進めています。

- ①教員採用試験における特別支援教育の免許保有者を採用する特別枠を新設します。
- ②講習等の受講環境を整備し、特別支援学校教諭免許の取得を推進します。
- ③特別支援学校の若手教員や講師のための研修プログラムを開発し、実践力の向上を図ります。
- ④特別支援学級や通級指導教室のモデル教員を養成し、すべての教員の専門性向上を図ります。
- ⑤専門性の高い特別支援学校を核として、様々な専門分野に関する指導的立場の教員を養成します。

育成会要望

2

就労について

特別支援学校高等部卒業生が年々増加をする中で、企業への就労及び福祉的就労での各種の課題について、県としての方策の揭示をお願いします。

【回答】 障害福祉課

特別支援学校卒業生等の就労継続B型事業所利用については、原則「就労移行支援事業者のアセスメント」を受ける必要がありますが、平成27年3月31日までは経過措置としてアセスメントを経ずに利用できるようになっていました。就労移行支援事業所が少ないなどの問題もあるため、県では平成27年4月以降の取り扱いについて現在対応策を探っております。今後も制度の見直しも含めて、国へ働きかけを行ってまいります。

また、就労継続A型事業所については、ほかの事業所に比べ増加が顕著ですが、苦情も多く見受けられることから7月に集団指導を行ったところです。引き続き指導、監督を行ってまいります。

【回答】 労働雇用課

今年度より県内5か所の障害者就業・生活支援センターに「障がい者雇用開拓員」を1名ずつ配置しました。「障がい者雇用開拓員」はセンターや特別支援学校と職場開拓の情報を共有し、また、職場実習に担当教員と同行するなどして生徒の理解を深めるなど連携を強化しているところです。

【回答】 特別支援教育課

卒業生の就労継続のために、高等部1・2年生の段階から企業内作業学習や校内作業学習など、体験的な学習に積極的に取り組んでおります。一人一人の適性に応じた進路選択と就労継続ができるスキルが身につけられるよう努めています。

平成26年
10月19日

第12回 岐阜県障害者スポーツ大会秋大会

ドリームスポーツ大会

◆岐阜
メモリアルセンター

10月19日(日)、岐阜メモリアルセンターにてドリームスポーツ大会が開催されました。気持ちの良い秋晴れの日となりました。



陸上競技のフライングディスクの様子です。他には短距離、中距離、リレーがありました。



団体競技の綱引きです。玉入れや大玉ころがしもありました。

自由参加のふれあいラリーは皆が楽しむことのできるコーナーです。バザーも出店され、にぎやかで楽しい一日となりました。

平成26年
11月1▶3日

第14回 全国障害者スポーツ大会秋大会

長崎がんばらんば大会

岐阜県
手をつなぐ育成会副理事長
樋渡 一輝

全国障がい者スポーツ大会長崎がんばらんば大会へ知的障がい者団体から岐阜県の副団長として参加しました。松井団長以下本部の役員として数か所に分かれている大会会場を視察しました。

まず、島原市で行われていたサッカーの会場へ。ここ島原は強豪国見高校の本拠地です。街路灯もサッカーボールをデザインしてある島原での戦いは長崎代表との戦いでした。到着時はハーフタイムでしたが5対0とリードしていて、後半戦を見ましたが岐阜のサッカーも本当に強くなったなという印象でした。聴覚障がいのバレーボールの女子も強くて全国3位になりました。前回東京大会で敗戦した広島との一戦でしたが本当に強くなりました。サッカーやバレーの指導者、関係者の方たちに脱帽です。

その他、ソフトボール、アーチェリー、知的の男女のバレー、フライングデスク、卓球、ボーリング、そして強かった水泳など応援してきました。

そして、本拠地の陸上でしたが本当に強かった。走り幅跳びにジャベリックスローなど次々にメダルを獲得していきました。最後のレースに4×100メートルの混合リレーがありました。本拠地長崎と一緒にレースでした。バトンリレーがうまくいくか心配していましたが、第1走者の女子が上位に付くいい走りをしました。第2走者は3位につけ、第3走者は頑張っってトップになりました。そしてアンカーは、相手をぶっちぎってゴールしました。見事な最終レースのチャンピオンです。



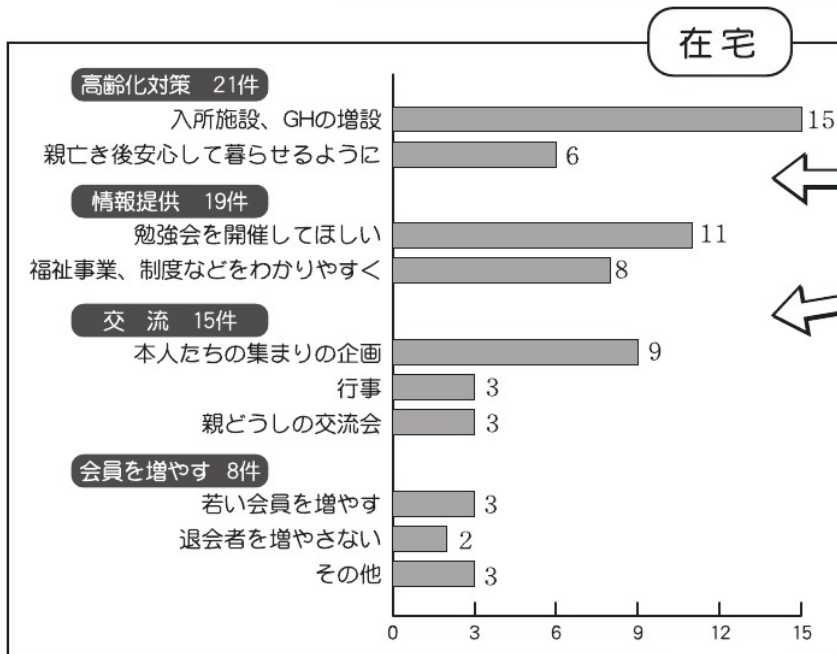
毎回言われます。「岐阜の応援はなぜそんなに上手なのか」と。それこそ、チームワークです。来年は和歌山で開催されます。今年以上の成績を残すよう頑張っっていただきたいと思ひます。

育成会活動活性化委員会報告

意向調査の結果より

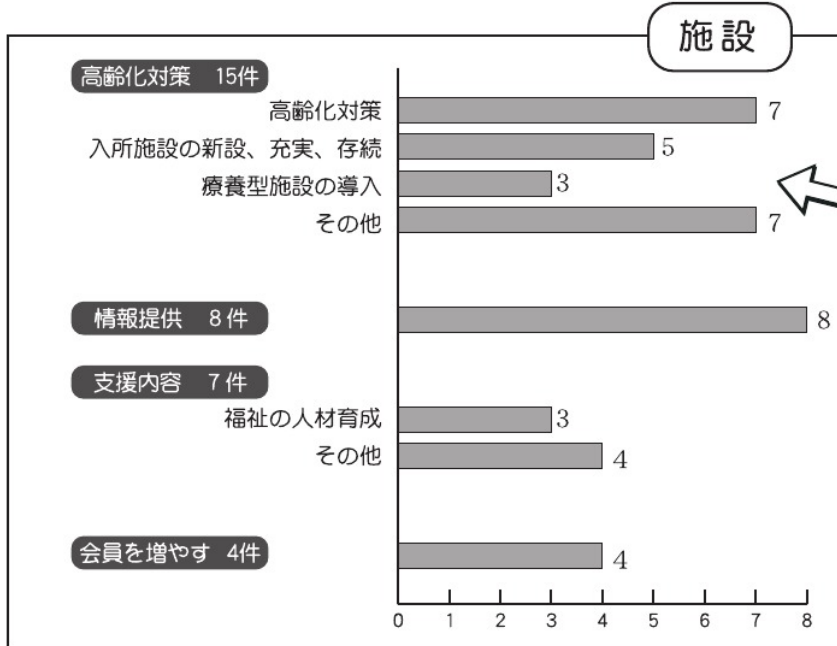
昨年9月から12月にかけて実施した意向調査には、たくさんの会員のかたのご協力をいただき、ありがとうございました。県育成会では、調査の結果をもとに活動を見直し、会を活性化していきます。11月21日に行われた育成会活動活性化委員会での話し合いをご報告します。

育成会で取り組んでほしいこと

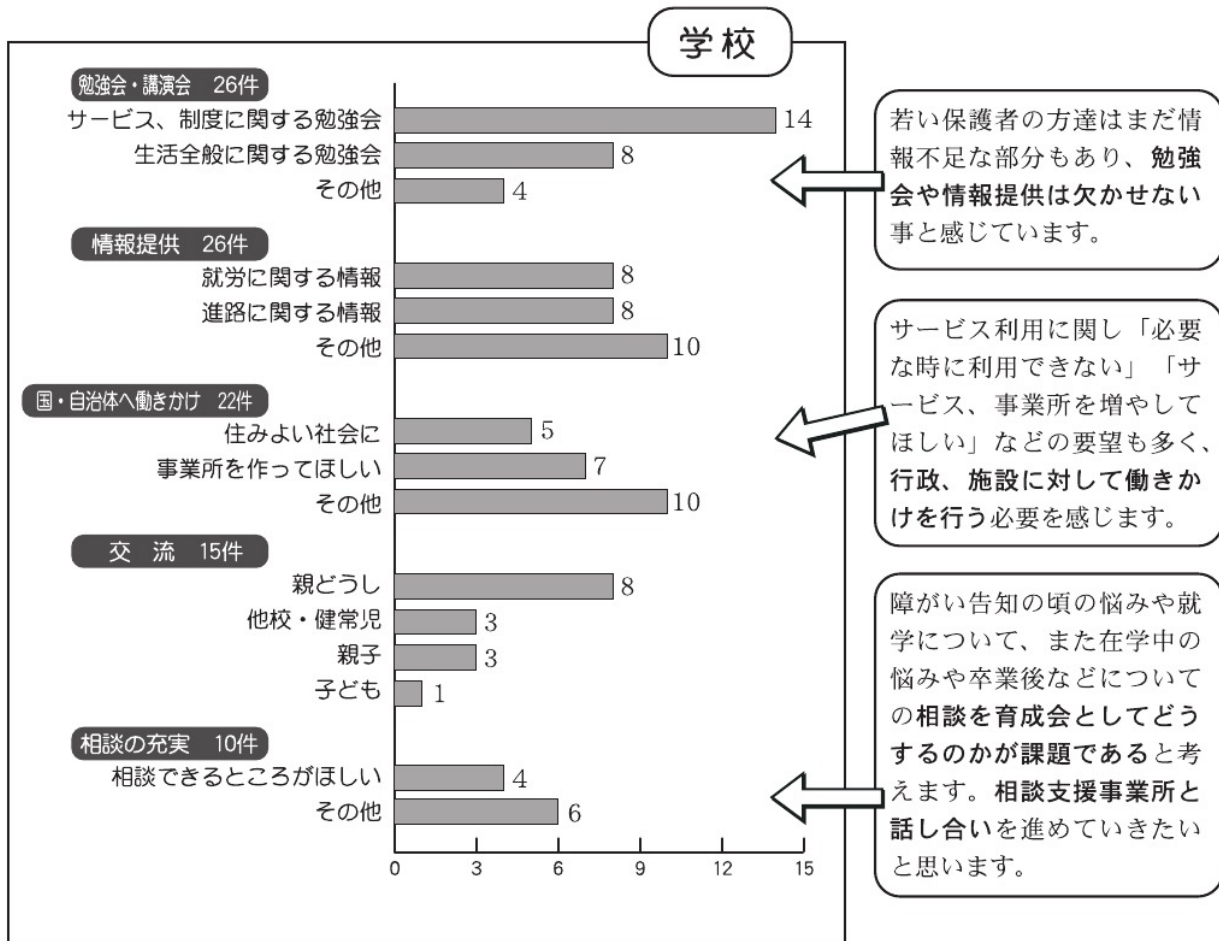


交流や情報提供は、身近な地域でという意見がありました。活発に活動している地域の様子を「椎の実」やホームページなどでお伝えしていきたいと思います。それが、ほかの地域の活性化にもつながると考えます。広報・啓発委員会で検討していきます。

ぜひご覧ください
ホームページ更新しました!
岐阜県手をつなぐ育成会で
検索
研修案内、大会報告など
掲載しました



施設・在宅の多くの方の不安は「今のところにずっといられるのか」「最後の看取りは」など、高齢化に関するものでした。現在入所している施設の団体である支援協会との話し合いを進めていくことで、不安を解消できるのではないかと考えています。



平成27年度年間予定

- 6月21日(日) 第57回 岐阜県手をつなぐ育成会県大会 多治見市
- 9月26日(土) 第2回 全国手をつなぐ育成会連合会全国大会 愛知県 名古屋市
- 27日(日) (第48回手をつなぐ育成会東海北陸大会併催)

来年度の全国大会は、隣県での開催となります。皆さんぜひご参加ください

障がいのあるご本人と、そのご家族のための総合保険です。

ぜんちの
あんしん保険

平成25年料率改定

少額短期健康総合保険(無告知型)2012年創設

*この広告は商品の概要を説明しております。ご契約の際には必ず「パンフレット」「重要事項説明書」をご確認ください。

保障内容(A-1プランの場合 年間保険料17,000円)

死亡保険金 10万円	法律相談費用 5万円 ^{までの実費}
特定重度障害保険金 10万円	弁護士委任費用 100万円 ^{までの実費}
入院保険金 1日につき 8,000円 ^{※1}	接見費用 1万円
入院一時金 10,000円	個人賠償責任保険金 ^{てん補} 1,000万円 ^{※2}
傷害通院保険金 1日につき 1,000円 ^{※1}	

※1: 一回の入院または一回の通院につき、30日限度。
※2: てんかんによる入院の場合は一日につき4,000円となります。

詳しい資料のご用命は、下記代理店へお願いいたします。

岐阜県代理店

(有)ファースト・アクション

岐阜オフィス

美濃加茂オフィス

〒502-0851 岐阜県岐阜市登山1280-1 協和ビル3F

TEL 058-295-0360

〒505-0031 岐阜県美濃加茂市新池2丁目135-1 ビレッジハウス101

TEL 0574-28-3160

〇引受保険会社

ぜんち共済株式会社

〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-5-8
岩本町シティプラザビル 5F

実践レポート

『ぶんぼうぐやさんをしよう』～「心のとも運動」の活動報告～

各務原市立鵜沼第二小学校 特別支援学級



「やったあ。『ぶんぼうぐやさん』だ。先生、看板つくらなきゃ!!」

毎年、この時期になると、学習室1組、2組の子どもたちは、うきうきしています。本校では、「心のとも運動」を交流及び共同学習の一つの機会ととらえ、全校の友達や先生たちと関わる場面を多く設定するようにしています。

まず、お昼の放送で「心のとも運動」についての話をします。それから、注文用紙を持って各学級へお知らせに行きます。上手に話すことができるよう、事前に教室で何度も練習をします。友達が一生懸命聞いてくれるので、頑張ってお知らせをした後は、とてもうれしそうです。次に、全校の友達や先生から届けられた注文の集計をします。みなさんから預かった大切なお金なので、間違えないように繰り返し数えます。品物が届いたら、袋詰め作業の開始です。品物を入れる『ぶんぼうぐやさん』の袋も子どもたちの手作りです。その中へ、注文通りの品物を心を込めて入れていきます。最後に、注文してくれた友達や先生には、『ぶんぼうぐやさん』まで品物を取りに来てもらい、一人一人に手渡します。

「いらっしゃいませ。」「ありがとうございました。」『ぶんぼうぐやさん』には元気な声が飛び交います。「どうもありがとう。」と言われた時には、とびっきりの笑顔を見せる子どもたちです。



ご協力
おねがいします。



廊下の掲示板上で全校の友達に集計や袋詰め作業の進行状況を知らせています。



よろこんでもらえて
うれしいな。



この会報は赤い羽根共同募金の配分金によって発行されています。